
日本現代中国学会ニューズレター

第21号 2007年5月

Newsletter of The Japan Association for Modern China Studies No.21 May, 2007

学会ホームページ : <http://www.soc.nii.ac.jp>

目次

巻頭言 丸山昇先生を悼む

和光大学 佐治俊彦

各地域部会研究会の報告

これから開かれる研究会

お知らせ

【巻頭言】

丸山昇先生を悼む

和光大学 佐治俊彦

昨2006年11月26日、本学会の最古参会員で、中国現代文学なかんづく魯迅、文革研究の泰斗であった丸山昇先生が肺炎のため逝去されました。今年2月18日学士会館で開かれた「偲ぶ会」には各界から300人以上の参加があり、様々な分野から交々に先生の思い出や追悼の言葉が捧げられ、私も舌足らずな拙い思い出を喋らせて頂きました。

これ以外に、様々なメディアに先生の業績を顕彰する文、思い出などが私の知る限りでもびっくりするほど発され、それこそ丸山先生の誠実で優しい人柄に浴した者たちの熱い思いの噴出と、今更ながらに感動しています。『魯迅研究月刊』も今年第2期（3月20日発行）を「魯迅博物館荣誉研究館員丸山昇先生紀念特刊」と銘打って、普段よりはるかに厚い128頁を先生の追悼文、顕彰文、写真で埋め尽くしました。魯迅博物館からは奥様の元へ銭玄同、許寿裳、胡風、林辰に継いで、外国人としては初の「丸山昇先生特蔵文庫」開設の希望が寄せられています（回答については未定ということです）。もうこれ以上に、私ごときに何を語ることがあろうと心底思うのですが、広報委員会からのたつての要請を断り切れず、今まであまり語られなかった先生の最後の数ヶ月、去年の大会前後のことを簡単に報告させて貰うことにしました。

去年の年次大会の共通論題を「文化大革命と中国の現在」とし、丸山先生に特別講演をお願いして快諾を得たことは、大会前の『ニューズレター』で皆様にお知らせしました。実は「声が掛かるうちが華だから」と言ってお引き受け頂いたちょっと後で、去年の7月、先生は中国30年代文学研究会の帰り大森駅のホームで転倒され、救急車で入院されるという大怪我をされていました。しかし先生は強靱な精神力で回復に努められ、9月初旬の研究会の合宿に元気に参加され、大会の講演にも意欲を燃やしておられましたので、『ニューズレター』の発信を

行ったのでした。さすがに心配された奥様が研究会への参加を控えたらと勧められたところ、「僕は今唯一あの研究会を通じて世の中と繋がっているんだ」と激しく異議を唱えられたという話はしばらく後で聞きました。

ところが9月の末、一人で大丈夫だと歯医者に行かれた先生はまた転倒され、顔の大部分を内出血するという怪我を負われてしまったのです。しかしそれから10日もたたない内に大東文化大学で催された「中国現代文学研究者懇話会（通称前夜祭）」にはそのお顔で奥様同道で参加され、淡々と事故の状況を語っておられました。私などはあまりの痛ましさにお顔を正視できないほどでしたが、ご本人はその時も講演への意欲を崩されませんでした。

大会はその2週間後でしたが9日目の10月16日朝、食事中に痙攣が起り意識不明となり緊急入院され、先生が強い意欲を持たれ、私たちも何としてもお聞きしたいと切望した特別講演は永遠にお聞きできないことになってしまいました。渾身の力を絞って打たれたレジュメは出来上がって大会事務局に出されていきましたので、大会当日は参加者にこれを読んで先生が何をお話になりたかったか想像してくださいと言ってお配りしました。倒られる前日15日の夜、健康と記憶力に不安を感じられた奥様が練習台になってあげようと言って、この「近45年の中国と私」と題されたレジュメで講演の予行演習をされたそうです。メーデー事件や共産党との関わりの中で自分が中国とどう関わってきたかを話され、その確かな記憶と論理に奥様もほっとされたそうですが、先生の人生を洗いざらい語られようとしていたのだと、これも後で知りました。

それから40日間、先生はそれこそ壮絶な死との闘いを続けられました。時には意識もはっきりし、パソコンの音声入力を始めようかと更なる仕事にも意欲を燃やされ、これならと私たちも希望を抱いたこともありましたが、遂に還らぬ旅に立たれてしまいました。冥福を祈るのみです。

【各地域部会研究会の報告】

「日本現代中国学会西日本部会2007年度春季研究集会」

日時：2007（平成19）年 5月19日（土）13：00～17：30

場所：福岡市中央区六本松 九州大学 六本松キャンパス 本館2F第1会議室

総合司会：横沢泰夫（熊本学園大学）

1. 第一報告（文学）報告者 鳥谷まゆみ（九州大学大学院）

報告論題：「文学者周作人の萌芽—明治末期東京体験から—」

コメ

ント 呉紅華（九州産業大学）

2. 第2報告（経済）報告者 真殿仁美（九州看護福祉大学）

報告論題：「中国の障害者福祉 社会参加に向けた新たな動き」

コメント 甘長青（九州大学）

3. 第3報告（政治）報告者 松本 充豊（長崎外国語大学）

報告論題：「台湾の民主主義とポピュリズム」

コ

メント 通山昭治（九州国際大学）

4. 第4報告（歴史・思想）報告者 祁 建民（長崎シーボルト大学）

報告論題：「現代中国における村政と宗族」

コ

メント 小竹一彰（久留米大学）

5. 西日本部会総会

現況報告：岩佐

昌三（熊本学園大学）

「日本現代中国学会春季修士論文報告会（関東）」

日時：5月19日（土） 9：30～12：50

場所：東京大学駒場キャンパス18号館4階 コラボレーションルーム1

第一報告 司会 川島真（東京大学）

報告者 柳 英武（筑波大学大学院人文社会科学研究科）

「日清戦争後の清韓関係の再編成—国交断絶から通商条約の締結まで」

第二報告 司会 高田幸男（明治大学）

報告者 薛軼群（東京大学大学院総合文化研究科）

「1919年蘇州における日貨ボイコット運動について—商会と学生の活動を中心に—」

第三報告 司会 高見澤磨（東京大学）

報告者 三橋陽介（筑波大学大学院人文社会科学研究科）

「抗戦前南京国民政府の『司法の党化』—司法院法官訓練所第四屆法官訓練班を中心に—」

第四報告 司会 坂元ひろ子（一橋大学）

報告者 土肥歩（東京大学大学院総合文化研究科）

「「自立」と「連関」：中華人民共和国成立前後における自立教会をめぐるキリスト教宣教師と中国人教会指導者の活動の諸相について」

第五報告 司会 趙宏偉（法政大学）

報告者 呉金海（立教大学博士課程後期） 「1990年代の中国における外国消費文化について」

【これから開かれる研究会】最新の情報は学会ホームページでご確認ください。

日本中国学会2007年度関西部会大会

日時：2007年6月3日 10：00～17：40

場所：関西大学100周年記念会館

〈自由論題〉

〔政治・法律分科会〕

◇司会 北川秀樹（龍谷大学）

第一報告 横浜勇樹（三重中京大学短期大学部）「中国都市部の「社区」政策に関する一考察—北京市の「社区服務」の活動から—」

コメンテーター 富田和広（県立広島大学）

第二報告 笠井孝之（読売新聞大阪本社）「林彪事件その後」

コメンテーター 加々美光行（愛知大学）

◇司会 滝田 豪（大阪国際大学）

第三報告 王 晨（大阪市立大学）「物権法草案と中国憲法—所有権を中心として」

コメンテーター 徐治文（追手門学院大学）

第四報告 久野輝夫（中京学院大学）「日本の「新幹線技術導入」と「対日意識」について 中国（上海）：台湾においての調査報告」

コメンテーター やまだあつし（名古屋市立大学）

〔経済・社会分科会〕

◇司会 佐々木信彰（大阪市立大学）

第一報告 司馬義・阿布力米提（イスマイル・アビリミト）「中国少数民族地域における観光開発について」

コメンテーター 松村嘉久（阪南大学）

第二報告 梶谷懐（神戸学院大学）「土地収用問題と財政・金融政策」

コメンテーター 山本裕美（京都大学）

◇司会 北波道子（関西大学）

第三報告 太 武原（大阪経済大学非常勤）「中国第三次産業の構造分析」

コメンテーター 辻 美代（流通科学大学）

第四報告 曾 榮欽（立命館大学大学院）「中国外資企業の人材現地化による摩擦の回避に関する研究—日・台系中小企業の実態調査を中心に—」

コメンテーター 圖左篤樹（関西大学大学院）

〔歴史分科会〕

◇司会 西村成雄（大阪外国語大学）

第一報告 柴田哲雄（愛知学院大学）「汪精衛南京政府のヴィシー政府観—比較の観点から—」

コメンテーター 金丸裕一（立命館大学）

第二報告 金子肇（下関市立大学）「内戦期の立法院と 1947 年憲法体制」

コメンテーター 田中 仁（大阪外国語大学）

◇司会 副島昭一（和歌山大学）

第三報告 成瀬千枝子（関西大学非常勤）「戦後の大阪華人社会の変容—華人組織を中心として—」

コメンテーター 二宮一郎（大阪府立桃谷高等学校）

第四報告 服部隆行（愛知学院大学非常勤）「朝鮮戦争の戦況と中国国内の世論に関する—考察」

コメンテーター 馬場 毅（愛知大学）

〔文化・思想分科会〕

◇司会 杉本雅子（帝塚山学院大学）

第一報告 奥野伸行（仏教大学大学院）「路ニと雑誌『七月』」

コメンテーター 斎藤敏康（立命館大学）

第二報告 瀬戸宏「二つの『趙氏孤児』—21世紀初頭中国現代演劇界一瞥」

コメンテーター 藤野真子（関西学院大学）

◇司会 岡田英樹（立命館大学）

第三報告 三輪雅人（関西外国語大学）「嘉納治五郎について—留日学生教育を中心に—」

コメンテーター 北岡正子（関西大学名誉教授）

